

新フンボルト入試 Q & A

2024年7月13・14・15日に行われたオープンキャンパスにて、新フンボルト入試説明会・合格者座談会を開催しました。合格者座談会で参加者の方々から頂戴した質問をもとに、Q & Aを作成いたしました。



- Q1 どんな高校生活を送っていましたか？
- Q2 新フンボルト入試を受験した理由は？
- Q3 入試対策はどんなことをしましたか？

A1 美術部で大会に向けた作品を描いたり、オンラインの英語プログラムに参加したり、海外協定校の生徒と文通したり、検定試験の難しい級に挑戦したり、とにかく自分が楽しいと思うものに手を伸ばしていました。もちろん一般入試に向けた受験対策にも本気でしたが、基本的に好きなことには制限をかけずなんでもやってみる高校時代でした。高校生活の半分がコロナ禍でしたが、海外研修に行けなかったことと学校行事が中止になったこと以外には、後悔はないです。

A2 ずばり、第一志望のお茶大に入るチャンスを増やすためです。一般入試を想定して準備していましたが、「もしかしてチャレンジしたら受かるかも…？」の気持ちで元々ぼんやりと視野には入れていました。2年生で参加したプレゼミナールが面白かったこと、アドミッションポリシーや試験で求められているものが得意分野と近く、適性を感じたことで受験に踏み切りました。

A3 自分の興味があるトピックの知識を増やそうと読書をし、記録をしました。哲学や文化人類学系の本、詩集、エッセイ、新聞記事、省庁の調査報告書などに広く触れ、考えたことや連想する事象を書き出していました。それから動画やニュース、友人との会話などから発生する「？」を見逃さないようにしていたと思います。自分の問題関心や興味が学問分野的にどれにあたるのか洗い出してみると、探求もしやすくなりました。



文教育学部 人間社会科学科 3年

A1 植物の生きる仕組みに興味を持ち、島根大学 GSC で研究をしていました。植物は環境ストレスから身を守るためにアスコルビン酸を蓄積しますが、花卉ではアスコルビン酸がどのくらい蓄積され、どのように作られているのに興味を持って調べました。予想と異なる結果が出ることもあり未知を追求する楽しさに目覚めました。その成果を国際学会などで発表しました。楽器にも熱を入れていてソロコンテストの全国大会に出場していました。

A2 論文をたくさん読んでいた中でお茶大の生物学科の先生の論文にとっても興味を持ち、その先生の研究室で研究したいと思いました。さらにお茶大の生物学科にはアドバンスプログラムという1年生から研究ができる制度があり、研究者を目指す私には最高の環境だと思いました。新フンボルト入試では早くから生物学に興味を持って取り組んできた実績や、1年生からお茶大で研究に励みたいという熱意を先生方にぶつけられることから受験を決しました。

A3 私の人物像や努力が伝わるように、募集要項の求める人物像と合致するように活動内容と学びを書き出して志望理由書の文章を練りました。二次試験対策として、ポスター発表と口述試験の練習を学校の先生と両親と行いました。ポスター発表は練習を繰り返し、構成や言い回しを修正して「一度で内容を理解してもらえる発表」を心がけました。口述試験の練習では、「聞き取りやすさ」と、「長くなりすぎずに言いたいことの要点を押さえて自分の言葉で話すこと」を意識しました。



理学部 生物学科 1年